

東北本線の開通

1881(明治14)年設立された民間の日本鉄道株式会社^{にほんてつどうかぶしきがいしゃ}によって、東北本線の鉄道敷設^{ふせつ}は行われました。

1885(明治18)年7月大宮～宇都宮間が開通し、翌年8月には白河～福島間の工事が着工されました。

県北地方の養蚕地帯^{ようさん}では鉄道敷設への反対運動がありましたが、1887(明治20)年12月15日郡山～仙台間が開通し、福島停車場^{ていしやば}(JR福島駅)が開業しました。開業当初、現在の福島市内での開業停車場は福島と松川だけでした。1891(明治24)年には青森まで開通しました。



146. 開通当時の機関車と福島停車場

奥羽南線の開通

1892(明治25)年福島～青森間の鉄道敷設が決定し、鉄道庁により測量が行われました。明治26年、鉄道庁は、福島から湯沢(秋田県)へ、また青森から湯沢へ向かってそれぞれ工事を進めることを決め、福島～湯沢間を奥羽南線として福島建築出張所^{けんちくしゅつちやうじょ}、湯沢～青森間を奥羽北線として青森建築出張所が当初担当することになりました。

庭坂と米沢(山形県)の間には松川、板谷峠^{きやうりやう}などがあり、松川橋梁や板谷峠トンネル(隧道)など難工事でした。トンネル工事では多量に煉瓦が使用されるため、野田村笹木野に煉瓦工場がつくられました。

1899(明治32)年5月15日奥羽南線福島～米沢間は開通しました。

コラム 煉瓦工場(下野寺字山神)

奥羽南線工事のため野田村笹木野に煉瓦工場が開設されたことが、「福島八景の碑」(岩谷観音裏面の「福島煉瓦業の碑」)に刻まれています。碑建立の経過は不明ですが、伊豆の国にかみかわづ^{こんりやう}、奥上河津村(現静岡県加茂郡河津町)の稲葉常松^{いなばつねまつ}、陸前国松岩村(現宮城県気仙沼市)の畠山六兵衛^{はたけやまろくべゑ}、岩代国山都村(現喜多方市)の小澤昌次の三人により煉瓦土管製造を開始したとあります。

工場開設は1893(明治26)年6月で、明治37年に業務拡張のため下野寺字山神に移転し、その後太平産業株式会社福島煉瓦工場となり、1966(昭和41)年に工場閉鎖とされています。

字山神地内には煉瓦造りの山神神社があり、その境内には稲葉常松らが寄進した珍しい素焼きの灯籠があります。



147. 福島八景の碑



148. 煉瓦工場と作業風景



149. 山神神社(左)と寄進された灯籠(右)

しんたつ き どう 信達軌道の開通

1906(明治39)年3月^{てつどうこくゆうほう}鉄道国有法が公布され、国内鉄道のほとんどが国有化され、私設鉄道は地方の小規模な鉄道のみとなりました。

同年9月、^{こうしゅう}甲州(山梨県)の実業家^{あまみやけいじろう}雨宮敬次郎の



150. 開通当時の軽便鉄道機関車

呼びかけで、福島町公会堂に信達両郡の有力者が集まり、^{けいべん}軽便鉄道敷設について協議し、敷設内容、^{ほっきにん}発起人、創立委員選出等を決めました。そして、雨宮敬次郎と信達両郡の有力者30名の発起人により国に特許を申請し許可されました。資金は雨宮と地元が半額負担とし、明治40年11月雨宮社長名で^{しんたつ き どう かぶしきがいしゃ}信達軌道株式会社成立届(本社：福島市栄町32番地)が出され、^{さんしゅ}蚕種・生糸などの輸送に大きな役割を果たすことになります。

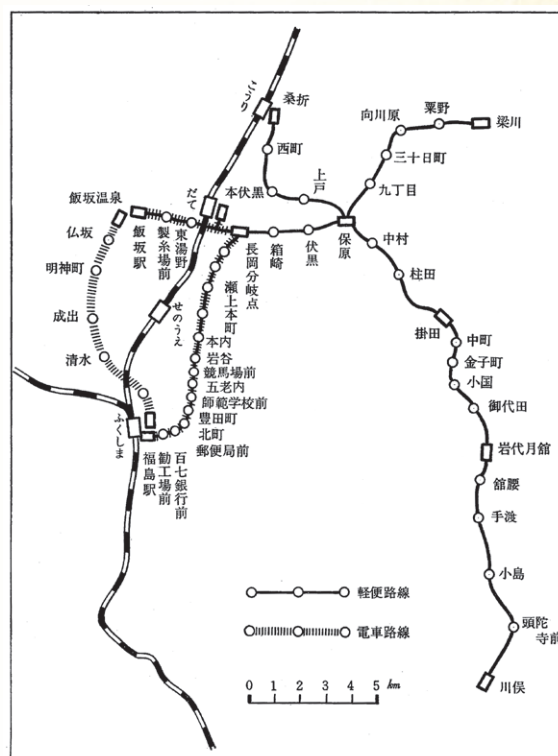
1908(明治41)年の^{おう う ろっけんれんごうきょうしんかい}奥羽六県連合共進会開催に合わせ、4月14日福島～長岡(現伊達市長岡)～湯野間の軽便鉄道が開通し、7月に長岡～保原間も開通しました。

また、4月の臨時株主総会で、信達軌道株式会社を含む地方軌道会社8社の合併が決議され、大日本軌道株式会社(雨宮敬次郎社長)が創立され、信達軌道株式会社は福島支社となりました。その後、1917(大正6)年9月地元有力者のみで新たな信達軌道株式会社(本社：長岡村)を設立し、大日本軌道株式会社から軌道敷設の特許が譲られました。

しかし、1922(大正11)年5月19日に^{じょうき}蒸気機関車の煙突の火の粉が原因となり、46戸が全焼する^{もとうちたいか}本内大火がおこり、電化への強い声があがりました。

信達軌道株式会社は大正14年12月名称を^{ふくしまでん き てつどうかぶしきがいしゃ}福島電気鉄道株式会社に変更し、翌年4月福島～長岡～飯坂間から順次電化を進めました。路面電車(チンチン電車)の誕生です(昭和46年廃止)。

また、1920(大正9)年蒸気機関車で福島～飯坂間の軌道許可を得て、翌年8月設立された^{いいざか き どうかぶしきがいしゃ}飯坂軌道株式会社は、同年10月福島飯坂電気軌道株式会社と改称し、1924(大正13)年4月福島～現花水坂間の電車運行を開始し、1927(昭和2)年現飯坂温泉駅まで延長しました。



151. 飯坂軌道及び福島電気鉄道運行路線図
(大正15年)

図中の飯坂温泉駅は現花水坂駅。
飯坂駅は後の湯野町駅。

近代の教育制度：寺子屋から学校へ

1872(明治5)年に学制が公布されると全国の町や村に小学校が設けられ、近代の教育制度が始まりました。多くは寺院や民家を間借りしての開校で、授業も藩校や寺子屋の師匠が担当するなど、近代の教育は建物も内容も手探りの状態で始まりました。やがて1879(明治12)年に教育令が、1886(明治19)年に学校令が公布されるなど教育制度はしだいに整えられていきます。その間、各町村と住民の努力により独立した校舎が建設され、教員の養成機関として、曲折を経て福島師範学校(現福島大学人間発達文化学類)が開設されました。

このような学校教育の黎明期の福島で教え、学んだ親子がいます。立子山の小学校長を務めた朝河正澄と、その子で世界的な歴史学者である朝河貫一です。

1874(明治7)年、二本松藩士であった正澄は立子山小学校の校長として招かれ、一時は校舎のあった天正寺に住んでいました。貫一も父の教えを受けながら幼少期を立子山で過ごし、その神童ぶりから「朝河天神」と呼ばれるほどでした。後に米国エール大学の教授となり、日米の平和のために奔走しました。天正寺には貫一が4歳の時に書いた馬の落書きが残されています。正澄は村の教育に力を尽くし、後に立子山が模範村として表彰される気風の礎を築きました。



152. 立子山小で学んだ
朝河貫一(1873~1948)
(提供:二本松市教育委員会)



153. 貫一の書いた落書き
(天正寺)

コラム 令和まであった明治の学び舎

松川町金沢の永仁寺の前に、明治に建てられた校舎が令和まで残っていました。旧金谷川小学校金沢分校です。同校は1875(明治8)年に八丁目小学校第二支校として永仁寺を仮校舎に開校し、翌1876(明治9)年に金沢小学校と改称しました。のちに金谷川小学校の分校になり、1969(昭和44)年の



154. 静かにたたずんでいた旧金沢分校 旧金沢分校付近図



廃校まで多くの子どもたちがここで学びました。この建物は、1885(明治18)年起工、1886(明治19)年落成と伝わり、現在は取り壊されました。

尋常小学校～国民学校～新制小学校へ

1872(明治5)年の学制公布以来、新しい時代を担う人材の育成は国家の急務とされ、試行錯誤の中で法令はたびたび変更されました。今では当たり前となった小学校6年、中学校3年という義務教育のあり方は戦後の学制改革によるもので、戦前の教育制度では義務教育は小学校まででした。

さらに教育を受けたい人は、現在の高等学校に相当する中学校や高等女学校、実業学校などに進みました。福島中学校(現県立福島高校)、福島高等女学校(現橘高校)、福島商業学校(現福島商業高校)、蚕業学校や信夫農学校(いずれも現福島明成高校)が明治時代に設立され、これらの学校からは今まで各分野に多くの人材を輩出してきました。



155. 松川小学校(松川町)



156. 福島中学校(森合町)



157. 蚕業学校(渡利)



158. 福島師範学校
(杉妻町)
(のち女子師範学校等として使用)

福島の学び舎

小学校は地区の子どもたちの学びの場として地域の協力のもと設立された。また中学校や実業学校には周辺から多くの進学者が集まった。

コラム シスター・ローズ・コーション～桜の聖母の創始者

1932(昭和7)年にカナダから5人の修道女が福島を訪れました。彼女たちが所属するコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会は学校での教育活動を行っており、日本での活動拠点として福島を選んだのです。シスター・ローズ・コーション(Sister Rose Cauchon)はそのひとりで、いろいろな困難をのりこえて修道院、診療所を設立し、1938(昭和13)年に雛菊幼稚園(現桜の聖母学院幼稚園)を設立し、園長を務めました。彼女たちは幼稚園での教育だけでなく、福島の人々のために音楽や語学、手芸、料理などの教室を開き、暮らしの貧しい人々の家を一軒ずつ訪問し、彼らの生活が少しでも良くなるように働きました。第二次世界大戦によって園の運営が一時中断され、自身も会津若松市に移住させられましたが、終戦後に活動を再開し、1946(昭和21)年には桜の聖母初等学校(現桜の聖母学院小学校)を開校、続いて中学校、高校、短大を相次いで設立し、後に東京で修道会日本管区の初代管区長となり、1993(平成5)年に亡くなりました。彼女は、日本の自然や文化、伝統芸術を大切にし、ときには日本人の言葉づかいを注意するほど日本語を大事に考えていました。



159. カナダからの5人の修道女たち
左から2人目がシスター・ローズ・コーション
(提供：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会 桜の聖母学院)

1907(明治40)年4月1日に福島市は誕生しました。人口は3万2524人、世帯数5582で、町役場(当時杉妻町)を市役所としました。

6月には初の市議会議員選挙があり、市議会で二宮哲三(1870~1937)を市長第一候補として内申し、7月に初代市長として就任しました。1925(大正14)年に退任するまで、二宮市長により上下水道整備、文化施設の整備、教育環境整備、市営住宅建設、道路整備等の都市の生活基盤事業が広範囲に行われました。



160.二宮哲三 市長

市民生活に欠かせない飲料水の確保のため、弁天山浄水場を設置し阿武隈川から取水する上水道工事は1925(大正14)年に完成し、松齢橋も完成しました。下水道工事では市内を流れていた用水路の整備を行いました。

市営住宅は、1920(大正9)年から建設が始まり、1927(昭和2)年までには199戸が建設されました。市営火葬場は大正9年9月に新築され、市の福島職業紹介所が1925(大正14)年6月に開設されました。文化施設では、1917(大正6)年に御大典(大正天皇即位)記念事業として、現在地に木造ゴシック式の公会堂が完成しました。

教育環境整備では、1913(大正2)年に私立福島成蹊女学校が設立され、また、二宮市長の誘致活動もあり、1922(大正11)年福島高等商業学校(現福島大学経済経営学類)が新設されました。

これらの整備には巨額の費用が必要でした。景気の移り変わりがはげしい時代で、第一次世界大戦後の不況の影響などから、昭和元年には市の借金は200万円を超え、厳しい財政状況となりました。

1918(大正7)年には、大島要三が中心となり誘致活動を行った福島競馬場が、市の支援などを得て、現在地に開場しました。

コラム 福島競馬場生みの親 大島要三

大島要三(1859~1932)は埼玉県北埼玉郡大桑村(現加須市)生まれで、奥羽南線の板谷の難工事を完成させ、その名声が高まりました。

その後福島町に移り住み、1907(明治40)年設立の信達軌道株式会社取締役、福島電燈株式会社社長などを歴任し、福島市初の市議会議員に当選し、福島市発展に貢献しました。

その功績で最も知られているのが福島競馬場の開設です。当時の郡山開成山競馬場は公認競馬場でなく、「福島競馬会」の伊藤彌が公認競馬場誘致(藤枝競馬倶楽部の譲渡)を大島要三に強く訴えました。大島は二宮市長をはじめ経済界を説得し、市をあげての公認競馬場誘致を行い、1918(大正7)年1月に福島競馬倶楽部が誕生しました。その後大島は会頭として、土地会社を設立し一般から株主を募集し、3月工事着工し、6月28日記念すべき第一回福島競馬が開催されました。



161.大島要三銅像
(信天山公園)



(福島市小学校用『郷土読本』福島市教務会(大正15年2月発行)より)



164. 通信省電気試験所福島出張所
(現: 福島市写真美術館) (大正11年)



165. * 福島高等商業学校(大正10年)



166. * 福島県師範学校(大正12年)



167. 福島市公会堂(大正6年)



168. * 福島税務署(大正3年)



162. * 福島郵便局(大正7年)



163. * 福島第二尋常小学校
(大正14年)

- ・ ()内は竣工年。
- ・ 日本銀行福島支店・福島県農工銀行(大正2年)、安田銀行福島支店(大正15年)は69ページで紹介している。
- ・ * 印の写真は、『福島案内』(昭和6年)より

大正末の福島市と大正の建築物

昭和のシンボル「福ビル」

1927(昭和2)年11月3日現在のまちなか広場に、福ビル(福島ビルディング)が開店しました。県都福島の新名所で「福島の流行は福ビルから」と言われ、連日多くの人で賑わいました。

福島市は、土地は市立図書館との交換で確保しましたが、厳しい財政状況のため、銀行団の資金提供を受けた草野喜右衛門他6名の有力者で建設し、市が年次計画で買収することにしました。

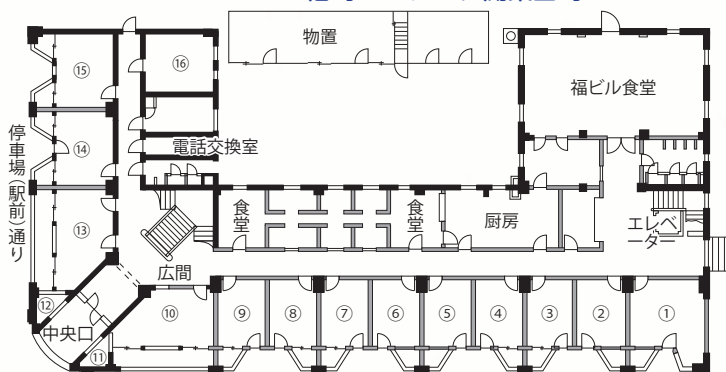
建物には、市立図書館、福島県商品陳列所、福島商業会議所、福ビル食堂や多くの商店が入居し、その後福島市商品館が開店しましたが、不況が続く中、1939(昭和14)年には議会で福ビルを速やかに売却すべしとの議案が議決されました。

福ビル完成の昭和2年は、多くの銀行が休業・倒産した金融恐慌の年であり、市内でも福島商業銀行が休業し、その後4つの地元銀行が休業あるいは破産・解散に追い込まれました。

1929(昭和4)年には世界恐慌が始まり、市民生活も苦しくなりました。特に米と繭の価格暴落は、信達地方の農家に大打撃を与え、冷害によりさらに生活が苦しくなり、高い失業率から出稼ぎ、移民等が増加しました。



169. 福島ビルディング開業当時



170. 福島ビルディング開業当時の一階店舗

福ビル開業当時1階にはこんなお店があった。

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| ①呉服太物雑貨 中村合名会社売店 | ⑪数内自転車商会 福ビル陳列 |
| ②眼鏡専門 角長商店売店 | ⑫二階商品列所即売 山田靴店 |
| ③新刊書籍 博向堂売店 | 福ビル陳列 |
| ④小松モスリン店 | ⑬美髪 カワムラ |
| ⑤帽子とメリアス類用品雑貨各種
五番館サモト | ⑭菓子と喫茶パン類とケーキ
森永 共栄キャンデーストア |
| ⑥純日本菓子・西洋生菓子 松月 | ⑮菱沼モスリン店(菱沼万四郎) |
| ⑦万年筆専門 鈴木萬正堂 | ⑯歯科一般口腔外科 福ビル歯科 |
| ⑧高級文具類・書画骨董・唐木細工
三浦商店 | 東北佐藤電気商会 陳列所
(三菱電機株式会社特約代理店) |
| ⑨小間物・化粧品・玩具・タバコ
福屋小間物店 | |
| ⑩生花花道具一式 花金 | |

(1927(昭和2)年11月3日福島民報「祝福ビル開館広告」より)

コラム 福島市の金融恐慌

福島市では、1927(昭和2)年6月の福島商業銀行休業にはじまり(1929(昭和4)年3月破産)、翌年3月には福島銀行が預金支払制限(昭和4年2月破産)、12月には県下最大の銀行第百七銀行が休業となり、1934(昭和9)年6月解散となりました。福島貯蓄銀行も第百七銀行と同時に休業しますが、1930(昭和5)年再開しました。

金融恐慌の結果、1935(昭和10)年には福島市に本店を有する普通銀行は一つもなくなってしまいました。



171. 第百七銀行本店(『第百七銀行史』より)

不況の中で

不況そして凶作によって苦しむ農家の若い女性の就職は特に厳しく、出稼ぎや身売り等が増加し、警察も防止に乗り出すほどでした。

また、明治から苦しい農村生活から海外移民が多く見られましたが、深刻な不況の中で北海道移住や樺太への移民申込みが増加しました。

さらに、家族・単身でのブラジル、カナダ、メキシ

コ、フィリピンへの海外移民も多くなりました。1930(昭和5)年、その年の4月25日までの本県海外移民は、伊達郡、信夫郡(現福島市)が最も多いと地元新聞は報じています。

さらに、1931(昭和6)年の満州事変により、満州への移民が国の政策として実施されるようになりました。その後、国際連盟脱退、1937(昭和12)年からの日中戦争へと戦争の道を進んでいきます。

学校	学年	勤労事項			勤労事情		補導上・注意
		仕事(勤務)	時刻	所得	家庭状況	勤労目的	
第二	尋5	納豆売	朝晩	平均1日7銭月2円	貧困多家族	家計ヲ助ク	
	"5	"	朝	平均1日5銭月1円50銭	準貧困"	"	
	"6	"	"	月90銭	貧困子供多く父死亡	"	
	"4	"	朝晩	1日4銭位	貧困父一人子一人	学用品	
	"6	新聞配達	朝晩	月収5円	生活困難	家計ヲ助ク	職業ズレセヌヤウ
	"4	"	"	月収3円	"	貯金学用品	
	"3	牛乳配達	夕方時々		牛乳販売業	家事手伝	
	"5	泥鰌売	夏日曜休日	20銭位	貧困	家計ヲ助ク	
	"5	まんぢゅう売り	日曜放課後	不定	準貧困	母の手伝	

表 1934(昭和9)年7月校外における児童生徒の勤労調査

市内の児童生徒の校外活動は貧困が原因となり、多くの学校で納豆売り等の勤労が見られる。凶作と恐慌が家庭に及んでいることがわかる。(『昭和9年7月福島小中学校校外指導連盟細則二関スル記録』より第二尋常小学校分のみ掲載)

荒井村の外国渡航記念燈 (荒井字八幡内)

昭和恐慌以前から、凶作で苦しい生活の中で、多くの海外移民がいました。特に多かったのが荒井村です。明治30年代前半から一番多いハワイ島のほか、英領カナダ、南米ペルー、ブラジルへと渡りました。1917(大正6)年3月、海外に渡った方々の寄付により「外国渡航記念燈」が建立されました。記念燈には荒井村をはじめ信夫郡の村々から海外に渡り、苦労を共にした方々の名が刻まれています。



173.「外国渡航記念燈」の文字板



174. 外国渡航記念燈

**農村不況益々深刻
海外移住者激増す**

今年になつて四月廿五日迄に
六五家族四八六名

不況な農村から海外へ移住する者が益々増加する。移住先は南米ブラジルが最も多し、次は石炭、石油、安楽地、双葉、酒に最も多い。移住者の多くは、移住先で農業に従事する者である。本年四月二十五日までに、移住を許可した者は、六五家族四八六名に達している。移住先は、南米ブラジル、石炭、石油、安楽地、双葉、酒に最も多い。移住者の多くは、移住先で農業に従事する者である。本年四月二十五日までに、移住を許可した者は、六五家族四八六名に達している。

172. 1930(昭和5)年5月7日福島民報記事
(福島県立図書館蔵)

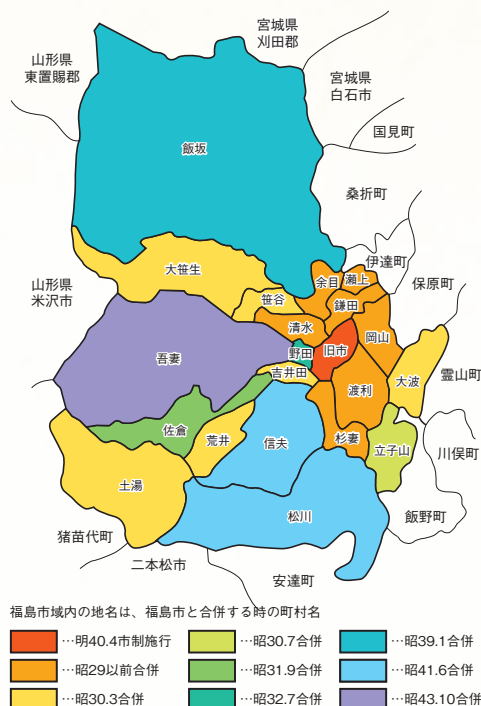
広域都市福島市の誕生

1946(昭和21)年8月17日夜、^{いなり こうえん}稲荷公園広場(現福島市中央駐車場)で開かれた「大福島建設期成市民大会」で近隣9か村(渡利村、杉妻村、吉井田村、大森村、平田村、野田村、清水村、鎌田村、^{くぎもともしお}岡山村)の合併を軸とする決議がされました。決議内容は、^{くぎもともしお}釘本衛雄市長の「大福島建設計画」構想プランに基づくもので、翌1947(昭和22)年に、渡利村、杉妻村、岡山村、瀬上町、鎌田村、清水村、吉井田村の一部との合併が実現しました。

1953(昭和28)年9月に町村合併を奨励する「町村合併促進法」が制定され、「昭和の大合併」が推進されました。

福島市でも近隣の村々との合併が進みました。また、1955(昭和30)年には新たに飯坂町、信夫村、松川町、1956(昭和31)年には吾妻村が誕生しました。1962(昭和37)年には吾妻村は吾妻町となりました。

そして、高度経済成長期に、飯坂町(昭和39年)、信夫村・松川町(昭和41年)、吾妻町(昭和43年)と合併し、広域都市福島市が誕生しました。吾妻町との合併によって古代からの「信夫郡」の名称はなくなりました



175. 市域のうつりかわり

(1969(昭和44)年度版『市勢要覧』より)

平和通り物語

1945(昭和20)年7月本土決戦・空襲に備え強制的に建物の疎開が行われた空地のうち、栄町から舟場町にかけての一带について、福島市は同年10月に街路計画を決め、工事に着手しました。幅40mとなる道路には、市の中央大通りとする案や、路面電車を複線化したいといった案も出たそうです。通りの名称については、「^{ひろこうじ}広小路」「^{ふくしまぎんざ}福島銀座」の名も挙がったそうですが、大町町内有志の「平和十日会」が「平和通り」の名乗りをあげ、通りに20枚ほどの「平和通り」表示板を建てる運動を行い、市側と協議し「平和通り」が公認されたと言われています。

1956(昭和31)年には、中央分離帯がグリーンベルトとして活用され、^{おおた りょうへい}太田良平作の平和のシンボル「^{おとめ}乙女の像」(後に市児童公園に移設)が設置され、復興の名にふさわしい通りとなりました。



176. 1957(昭和32)年当時の平和通り

暮らしと高度経済成長

戦後は衣食住全てが不足した生活から始まりましたが、昭和30年代後半からの高度経済成長により市民の生活も大きく変わりました。

さらに、昭和40年代はモータリゼーション時代と言われる高速交通時代を迎え、交通渋滞や公害問題などがおこり、渋滞をなくすための対策や道路網の整備が大きな課題となってきました。1967(昭和42)年に国道4号北町バイパスが開通、1970(昭和45)年に国道13号信夫山トンネルが開通、1973(昭和48)年にあづま陸橋が開通しました。

福島市と周辺町村を結んでいた路面電車(チンチン電車)は、自動車の増加に伴い路面電車の渋滞や事故が多く発生するようになり、1971(昭和46)年4月12日廃止となりました。

昭和40年代後半には、中合デパートを始め大型商店の福島駅前への集中化がみられる中、福ビル(昭和47年解体)をはじめ、多くの大正～昭和初期の福島市の顔が消えていきました。

昭和50年代になると、1975(昭和50)年4月東北縦貫自動車道(郡山～白石間)開通、1982(昭和57)年6月東北新幹線(大宮～盛岡間)開通と、福島市にも本格的な高速交通時代が到来しました。また、国道のバイパスや幹線道路の整備に伴い、郊外に大型スーパーが次々と開店するようになり、市民生活も変化していきました。



177. 昭和50年頃の福島駅前



178. 東北新幹線開通

1982(昭和57)年6月大宮～盛岡間が開通。
開通を祝う福島駅西口の様子。

コラム 消えていった福島のマチの顔

昭和40年代後半から昭和50年代にかけて、福ビル(昭和2年竣工、昭和47年解体)、第一勧業銀行福島支店(旧福島県農工銀行、大正2年竣工、昭和48年解体)、富士銀行福島支店(旧安田銀行福島支店、大正15年竣工、昭和49年解体)、そして日本銀行福島支店(大正2年竣工、昭和53年解体)など、大正～昭和初期の福島市の歴史を語る上で欠くことができない建物が消えていきました。

- 179.(右上) 日本銀行福島支店
- 180.(右下) 第一勧業銀行福島支店
(福島県農工銀行時代の写真)
- 181.(左) 富士銀行福島支店
(安田銀行時代の写真)



市制施行100周年と飯野町との合併

1998(平成10)年以降になると、保健福祉センター(平成10年)、すりかみ浄水場(2003(平成15)年)、子どもの夢を育む施設「こむこむ」(2005(平成17)年)等、子どもから高齢者まで安全・安心で健康で生き生きと暮らせる施設づくりが進められてきました。

2007(平成19)年に福島市となって100歳を迎えましたが、同時に新たな福島市の誕生の年ともなりました。6月に飯野町との合併協定の調印式が行われ、翌年7月1日に合併し、人口29万4773人、面積767.74km²となりました。

東日本大震災・原子力災害からの復興とまちづくり

新福島市の第一歩を踏み出した矢先、2011(平成23)年3月11日の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、ふるさと福島市はかつて経験したことのない被害を受けました。ライフラインや建造物が甚大な被害を受け、さらに、未経験の原発事故は、私たちの日常生活そのものに未曾有の災害をもたらし、平常値を大幅に上回る環境放射線量による健康への影響が最も懸念されました。さらに農産物をはじめとする産業・経済分野の被害、そして風評被害などあらゆる分野にその影響は及んでいます。

福島市では、ふるさと福島市の未来をになう子どもたち、そして全市民が夢と希望を持てる「希望ある復興」を理念とする復興計画を作成し、特に除染を柱とした原子力災害からの復興を、市民のみなさんと一緒に進めています。

復興と共に、新たなまちづくりも進められています。福島の

コラム 東日本大震災・原子力発電所事故の記憶

2011(平成23)年3月11日(金)14時46分震度6弱(三陸沖の深さ20km、マグニチュード9.0)の東北地方太平洋沖地震が発生し、東北地方から関東地方北部の太平洋沿岸を中心に広範囲で大津波を観測し、多くの死者、行方不明者と共に建物全壊など甚大な被害がありました。

福島市では、地震により電気・ガス・水道などのライフラインに大きな被害が発生し、死亡者13名(内、震災関連死7名)、住宅等の被害は1万件を超え、市施設の被害は約300件となりました。さらに、大津波により12日午後3時36分に東京電力福島第一原子力発電所1号機で水素爆発、14日3号機水素爆発、15日4号機水素爆発が発生し、多量の放射性物質を放出させる国内最大の原子力発電所事故が起きました。原発事故によって放射性物質が広範囲に飛散し、平常値を大幅に上回る環境放射線量となりました。

(福島市災害対策本部・復興推進本部『東日本大震災の記録』2014年より)



182. 晩参りの子どもわらじ

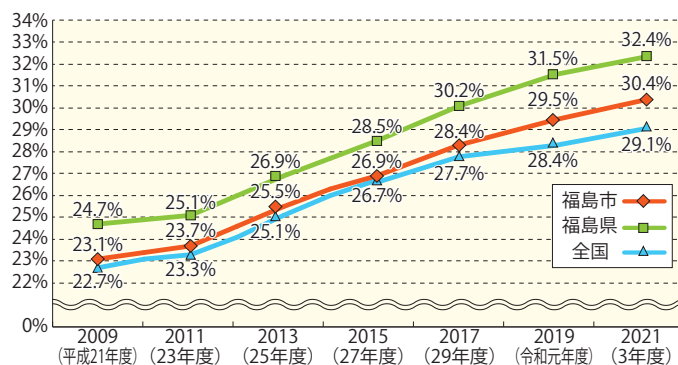
伝統の中で新たな取り組みが行われている。

玄関口であるJR福島駅前通りについて、リニューアル整備事業が進められています。そして、東日本大震災により大きな被害を受け解体した水道局分庁舎の跡地に、大原総合病院が建設され、栄町には福島県立医科大学の保健科学部が設置されました。これらの事業によって中心市街地もその姿を大きく変え、新たな時代を迎えることになるでしょう。

人口減少・高齢化社会への対応

「人口減少時代」到来と言われる中、福島市の人口は2001(平成13)年をピークに穏やかな減少傾向となり、さらに出生率の低下と共に今後急激な人口減少が予測され、2040年には約22万6000人と推計されているデータもあります。また、本市でも少子高齢化が進み、65歳以上の高齢者が占める割合(高齢化率)は、2021(令和3)年度では30.4%であり、全国の高齢化率を上回っています。

福島市にとって、希望ある復興と共に、急激な人口減少と、高齢化社会に対応した対策が今求められています。先人達が永々とふるさとを築いてきた知恵に学び、安心して働き、安心して子育てができ、安心して住み続けられるふるさとづくりを目指す取り組みが重要になってきます。



183. 福島市の高齢化率の推移

コラム 東京オリンピックと古関裕而

2021年二回目の東京オリンピックが開催されました。一回目は半世紀前の1964(昭和39)年に戦後復興を世界に発信したオリンピックでした。アジア初のオリンピックで、開会式の選手入場の初めに演奏されたのが、古関裕而作曲の名曲「オリンピック・マーチ」で、「心も浮きたつような古関裕而作曲」と紹介され、人々に深い感動を与え、音楽のもつ力を教えてくれました。



184. 古関裕而 (1909~1989)

若い人の祭典・日本での開催をイメージし、一世一代の作として精魂込めて作曲したと古関は語っています。

2021年の東京オリンピックは、東日本大震災からの復興を目的の一つに掲げられました。古関裕而が戦後の「復興」を背景に若い世代に発信した「オリンピック・マーチ」の心は、ふるさとの復興、そして将来を担う若い世代たち、半世紀の時を超えて開催された東京オリンピックへと引き継がれました。



185. 信夫山から中心市街地を望む

サクランボとリンゴの栽培^{さいばい}

福島市では、明治の初めにサクランボの栽培が始まり、1940(昭和15)年頃までは、福島市の北部、瀬上から飯坂付近を中心に広く栽培されていました。

福島市でのリンゴの栽培は、1888(明治21)年頃から始まりましたが、初めの頃は成功しませんでした。しかし、1907(明治40)年に水田の中に土を盛って塚のようにし、そこにリンゴを植え付ける栽培方法を

取り入れたことをきっかけに広がり、現在では福島盆地で広くリンゴが栽培されています。

第一次世界大戦以前は多くの農家が、養蚕業^{ようさんぎょう}を副業^{ふくぎょう}としていました。しかし、1914(大正3)年に戦争が起こると生糸^{きいと}の値段が下がり、桑^{くわ}の木の中にサクランボやリンゴの木を植えたり、さらに桑からサクランボやリンゴへの植替え^{うえか}が進みました。



186. 明治30年代の桑畑の様子(山口地区)

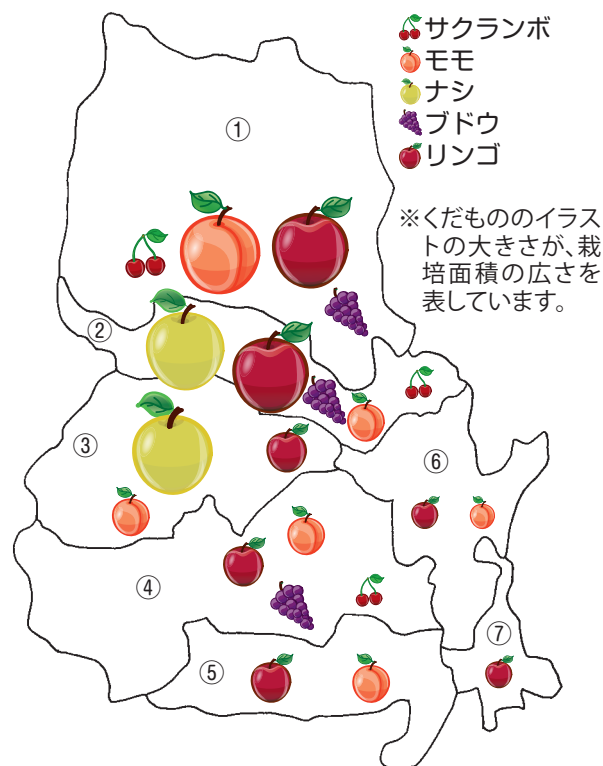
コラム 福島市の農産物の特色^{とくしよく}

福島市は周囲を山に囲まれており、その影響から夏は蒸し暑く、冬は寒さが厳しい気候で、一年に降る雨の量は多くありません。

その果樹栽培に恵まれた風土^{ふうど}を活かし、初夏のサクランボ、真夏のモモ、秋のナシやブドウ、初冬のリンゴなど、四季折々のくだものを楽しむことができます。

また、農産物の生産には、方部ごとに次のような特色があります。

①飯坂方部	モモとリンゴを中心とした果樹単一経営
②北福島方部	果樹と水稻を中心とした経営
③吾妻方部	ナシを中心とした果樹に水稻、花き、花木を組合せた複合経営
④西信方部	水稻に果樹を組合せた複合経営と花き、花木を中心とした経営
⑤松川方部	水稻に果樹や野菜、花きを組合せた複合経営
⑥東部方部	キュウリを基幹作物とした施設園芸
⑦飯野方部	野菜、畜産等を中心とした水稻との複合経営



187. 福島市の果樹分布図

(作成協力：ふくしま未来農業協同組合)

コラム しぎはら さ ぞう かや ばなし 嶋原佐蔵と萱場梨

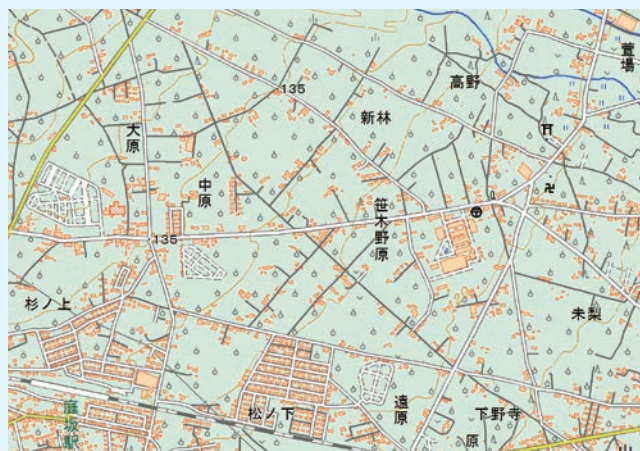
福島市ではナシの栽培も盛んですが、その生みの親が、嶋原佐蔵です。嶋原佐蔵は、1838(天保9)年に笹木野村(笹木野)に生まれました。

笹木野原のような砂や小石の多い土地がナシの栽培に適していることを教えられた嶋原佐蔵は、苗木50本を取り寄せて、1887(明治20)年に笹木野原の原端にナシを植え始めました。その頃は機械がなく、人の手で耕さなければならないため、山や野原を畑にすることは相当な苦勞を伴うものでした。また、苗木を植えてもすぐに収穫はありませんでした。しかし、大変な努力の結果、数年後ついにナシの栽培に成功します。その後、ほかの村人も嶋原佐蔵の教えを受けてナシの栽培を始めました。

福島市にナシの栽培を広めた業績を称えて、1911(明治44)年にナシを栽培する農家の人たちが、笹木野原字新林に頌徳碑(徳をたたえる碑)を建てました。



188.1908(明治41)年の地形図



189.2016(平成28)年の地形図(作成:(一財)日本地図センター)

針葉樹林(△)や桑畑(▽)から、果樹園(○)になり、住宅も増えたことが読みとれます。

コラム さとうみつ お はんろ 佐藤三男と福島産モモの販路拡大

福島を代表するくだものの一つがモモですが、その販売先を広げることに力を尽くした人物が、佐藤三男です。佐藤三男は、1914(大正3)年に伊達郡湯野村(飯坂町湯野)に生まれました。

1948(昭和23)年に北海道石狩町で商売を始めた佐藤三男は、苦勞と努力により業績を上げ、北海道を代表する水産会社をつくりあげました。北海道で商売を成功させながらも、故郷の福島に誇りと愛着を持ち続けていました。

1974(昭和49)年に札幌福島県人会副会長に就任した頃、札幌で福島のくだものまつりが開催され、これをきっかけに福島産モモの販路拡大に乗り出します。福島産くだものPRに訪れるミスピーチキャンペーンクルーなどの宿泊に22年間にわたり会社の寮を提供したほか、デパートなどでの販売に力を入れました。その結果、北海道における福島県産モモのシェアは、70%を占めるまでになりました。

1996(平成8)年5月4日には、福島県くだもの消費拡大委員会委員長(福島市長)名の感謝状が贈られました。

コラム ミスピーチキャンペーンクルー

モモを中心にナシやリンゴなどの福島産くだものイメージアップを図るため、全国各地のイベントや量販店などでPR活動をおこなっています。

1963(昭和38)年の初代桃娘から続いています。

190. 福島市公設地方卸売市場のセリ台でPR活動をする
ミスピーチキャンペーンクルー
(提供: 福島県くだもの消費拡大委員会)



福島市史編纂委員会(平成29年3月発行時)

委員長 鈴木 啓(福島県考古学会顧問)

副委員長 伊藤 喜良(福島大学名誉教授)

委員 太田 隆夫(福島県史学会常任理事)

委員 吉村 仁作(福島大学名誉教授)

委員 村川 友彦(福島県史学会会長)

ふくしま歴史絵巻執筆者(順不同)

齋藤 義弘 梅津 司 小針 道理 柴田 俊彰 守谷 早苗

ふくしま歴史絵巻事務局(令和7年7月一部改訂時)

星 秀明 高橋 佳生 加藤 芳宏 丹野 隆明 丹治麻里子

菅野真澄美 笠井 武弘

ふくしま歴史絵巻

平成29年3月発行
平成30年3月一部改訂
令和5年6月一部改訂
令和7年7月一部改訂

編集 文化振興課 郷土史料室

発行 福島市

印刷 株式会社 山川印刷所

福島市の成り立ち(町村合併表)

信夫郡	福島村	明治4年	福島町	明治22年	福島町	明治37年 福島町	明治40年 福島市	福島市	昭和22年 2月1日	福島市	昭和22年 3月10日	福島市	昭和29年 3月31日	福島市	昭和30年 3月31日	福島市	昭和31年 9月	福島市	昭和39年 1月	福島市	昭和41年 6月1日	福島市	昭和43年 10月1日	福島市	平成20年 7月1日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	曾根田村				明治22年																					福島町																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	腰浜村				明治22年																					浜辺村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	五十辺村				明治22年	浜辺村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	小山荒井村				明治22年	渡利村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	渡利村				明治22年	渡利村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	小倉寺村				明治22年	渡利村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	大蔵寺村	明治10年	黒岩村	明治22年			杉妻村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	黒岩村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	伏拝村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	鳥谷野村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	大平寺村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	郷ノ目村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	清水町村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	田沢村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	岡本村	明治9年	岡島村	明治22年			岡山村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	中島村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	岡部村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	山口村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	御山村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	森合村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	北沢又村				明治22年	清水村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	南沢又村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	泉村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	鎌田村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	丸子村				明治22年	鎌田村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	本内村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	瀬ノ上村				明治35年	瀬上町																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	南矢野目村				明治22年			余目村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	北矢野目村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	宮代村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	下飯坂村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	沖中野村	明治9年	冲高村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
高梨子村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
上大笹生村	明治9年	大笹生村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
町大笹生村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
下大笹生村	明治9年	笹谷村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
大谷地村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
荒井村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
土湯村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
仁井田村				明治22年			吉井田村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
吉田村	明治9年	吉倉村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
下名倉村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
方木田村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
八木田村																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
伊達郡	大波村							昭和30年	霊山町																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											</

信夫郡	大森村	明治9年 大森村		明治22年 大森村	明治25年 大森村		信夫村 昭和30年3月1日		福島市 昭和41年6月1日 福島市 昭和43年10月1日 福島市 平成20年7月1日															
	内町村																							
	小島田村																							
	前田村																							
	元永井川村	明治4年 永井川村			明治25年 鳥川村																			
	上永井川村																							
	上鳥渡村	明治9年 成川村																						
	下鳥渡村																							
	赤川村																							
	上成田村																							
	中成田村	明治4年 成田村																						
	下成田村																							
	平沢村	明治9年 平石村		明治22年 平田村																				
	石名坂村																							
	新田野目村	明治9年 小田村																						
	小倉村																							
	山田村																							
	八丁目村	明治9年 松川村			昭和11年 松川町	松川町 昭和30年3月20日	松川町 昭和30年3月31日																	
	鼓ヶ岡村																							
	天明根村																							
	下水原村	明治9年 水原村																						
	上水原村																							
	関谷村	明治22年 金谷川村																						
	金沢村																							
	浅川村	明治9年 浅川村																						
	浅川新町村																							
安達	下川崎村	明治22年 下川崎村																						
	沼袋村																							
信夫郡	笹木野村	明治4年 笹木野村		明治22年 野田村			吾妻村 昭和31年9月30日	吾妻町 昭和37年11月1日																
	新笹木野村																							
	上野寺村																							
	下野寺村																							
	八島田村																							
	土船村	明治22年 水保村			大庭村 昭和29年3月31日																			
	庄野村																							
	桜本村																							
	李平村	明治22年 庭坂村																						
	庭坂村																							
	在庭坂村	明治4年 庭坂村	明治19年 町庭坂村 明治19年 在庭坂村																					
	二子塚村																							
伊達郡	立子山村			明治22年	明治26年 立子山村		福島市	昭和30年7月10日																
	青木村			立木村	明治26年 青木村		飯野町 昭和30年1月1日																	
	飯野村			明治22年 飯野村																				
	西飯野村																							
	大久保村																							

凡 例

- 1 村名は、『旧高旧領取調帳』により、1868(明治元)年現在のものです。
- 2 昭和20年以降の福島市域での合併は月日も記載しました。

